

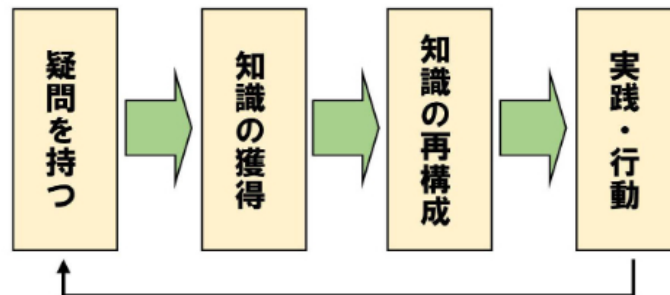
資料室


[HOME](#) | [資料室](#) | [一般教養](#) | [自己啓発](#) | [問題意識の強化を図る](#)
[労働組合](#)[労働者福祉・共済](#)[一般教養](#)[社会保障](#)[労使トラブル法律相談Q&A](#)[労働関係法](#)[経営全般](#)[人間関係とコミュニケーション](#)[ライフプラン](#)[男女共同参画](#)[公務員関係法](#)[日朝の歴史](#)[7つの習慣](#)[中東の歴史](#)[ボランティア活動](#)[環境活動](#)[社会貢献活動](#)[自己啓発](#)[生涯学習](#)[外交・防衛問題](#)[資本論](#)[教育カリキュラム](#)[日本国憲法](#)

問題意識の強化を図る

問題意識を持つということは、考えることの第一歩です。
自分の頭で「考える能力」を身に付けることです。

人間の知的成長は、



このような、サイクルを描いて、ラセン階段を昇るように、人間は知的成長を図っているとされます。

したがって、

1. 「何故だろう」「どうしてだろう」「どうすれば良いのだろう」と、常に自分に問いかけることです。
“私は、どんな人間になりたいのだろうか”と問いかけることです。
その問いかけは、「理想と目標」を与えてくれます。
そして、「自分はこうなりたい」という欲求が芽生えてくる力となります。
そうすると、「自己啓発の姿勢」が出てきます。常に、自覚することとなります。

2. 労働運動にも言えます。

一体我々の組合はどんな運動をしようとしているのだろうか。

どんな職場に、どんな社会に、……というように、ドンドン疑問を引出し、理想を語ることです。

組合員に呼びかけられるものを持つ、と言うことです。しかしこれは、「学習」「勉強」なくして言えません。

学習や勉強は、さらに次の問題意識を生み、社会や職場や組合の問題点を発見する力を養うこととなります。

ですから、「何故だろう」と問題意識を持つことは、考えることの第一歩であり、知らないことを知ることにつながります。

そして、知らないことを知ることにより、学習が深まり、さらに問題意識が生まれてくるというサイクルを描きながら「より高く、より広く、自己啓発」することになっていきます。

このように、知識を増やすことは、知らない問題が増えることでもあり、その解決へさらに知的欲求が高まるということになります。

「問題意識を持つ、疑問を持つ」ことが知的成長の出発点です。

[▶ サイトマップ](#)
[▶ このサイトについて](#)
[▶ 個人情報保護の取組みについて](#)
[TOP page](#)[資料室](#)[イベント情報](#)[講師を探す](#)

傾聴

語り部スキル

▶ キーワード検索はこちら

関連リンク

Worker's Library
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE

静岡で働く人のための資料閲覧ポ
ト

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.